

平成23(2011)年度版

ヒューマンライツ

【 Human - Rights (人権) 】



平成22年度別府市小・中学生「人権ポスター」別府市長賞
別府市立南小学校4年 小野本 恋さんの作品

別府市



市民のみなさんへ



別府市では、同和問題をはじめとするすべての人権問題の解決と一切の差別の撤廃をめざし、人権が尊重されるこころ豊かな国際観光温泉文化都市の実現を目標にまちづくりを推進する中、平成19年2月に策定した「別府市人権教育及び人権啓発基本計画」で重要課題とした下記8項目について、すべての市民があらゆる場面において人権を尊重し合うための人権教育・啓発を行うこととしています。

今回のこの「ヒューマンライツ」では、各種講座での講師によるメッセージや市民意識調査等について取り上げました。市民一人ひとりのみなさまが、お互いの人権を尊重し合うまち・別府市を築くために役立てていただければ幸いです。



別府市人権教育及び 人権啓発基本計画

<人権教育・啓発の基本的なあり方>

すべての市民がお互いの尊厳と自己実現の権利を認め合い、異質の文化や考えが互いに交流できる「共生社会」を基本理念とします。

そして、人権という普遍的文化を別府市において構築し、人権が尊重されるこころ豊かな「国際観光温泉文化都市」の実現を目標にまちづくりを推進していきます。

私たち一人ひとりが、自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、他の人の思いや多様な生き方を認め合える関係を築いていきましょう。



子どもの人権を考えよう

— みんな昔は子どもだった —

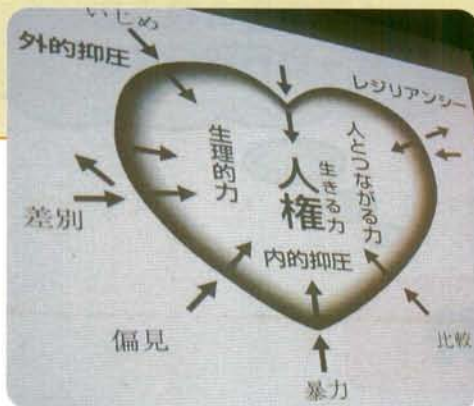
グッドイナフの会 橋本純子さんの講演より

子どもたちには、「人権って、ないと生きていくのに困るものだよ。」と語りかけています。



人権とは、等しく人間が持っているものです。手話では「人の力」と表します。また、「わたし」が「わたし」であることを大切に思う心の力です。「わたし」の命を尊重し、他者の命を尊重する力です。そして、そのような人権感覚は、すりこみ

で育っていくとも考えられます。



子どもにとっていちばん大切な4つの権利

- 1 生きる権利
- 2 育つ権利
- 3 守られる権利
- 4 参加する権利

(「子どもの権利条約」より)

平成22年度別府市小・中学生「人権標語」 別府市長賞
別府市立石垣小学校 3年 永松 優さん

『あいさつ』は 仲間をつなぐ あいことば

虐待事件などを防ぐためには、地域における声かけが大切になってきます。おとなの私たちにできることは、話をじゅうぶんに聴くことではないでしょうか。目と耳と心を傾けて話を聴きましょう。それは誰でもできます。聴いてもらうということは、魔法の力です。心を傾けて



くれる人がいる(聴いてくれる人がいる)と勇気がでてきます。

参加者の感想より

今日は聴くことの大切さを改めて思い知らされました。おとなであれ、子どもであれ、聴いてもらうことが自信と希望を与えることを感じました。



平成22年度別府市小・中学生「人権標語」 別府市教育長賞
別府市立青山小学校 6年 毛利 信之介さん

思いやる 心がきみを 強くする

医療をめぐる問題について

別府市医師会看護専門学校
大石恵子さんの講演より



最近、さまざまな
場面で医療のことが言
われています。

薬害エイズや肝炎のことなど、医療のことでニュース
にならないことはありません。

ハンセン病のことも問題になりました。当時は、病院
に患者も子どもも隔離されましたが、そのことが正しい
と信じられていました。これは、今でも考えさせられる
ことが多い問題だと
思います。



レッドリボン、エイズで亡くなっ
た人々への追悼の気持ちと、エイズ
に対する理解と支援の意思を示す
ためのシンボルです。

平成22年度別府市小・中学生「人権標語」別府市人権問題啓発推進協議会長賞
別府市立北部中学校 2年 相川 智彌さん

つらいとき そつとよりそう 友心

インフォームドコンセントとは、説明と同意のことです。
医師の説明をよく聞き、同意して、納得して医療を受けて
いただきたいと思います。また、途中で疑問が
わいた時は、遠慮せずにもう一度聞いていた
だきたいと思います。



看護にかかわるご家族のみなさんが、悩んで
いることや問題を、一人で抱え込んで
はだめだ
と思います。在宅でも、訪問看護などいろいろなものが
使えるので、それを利用することです。また、積極的に
周囲の助けを求めることも必要です。

参加者の感想より

- ・一人で思い悩まないで相談したい
と思います。
- ・看護師さんを見る目が変わり、今まで
と変わった気持ちで接していける
と思います。



平成22年度別府市小・中学生「人権標語」 佳作
別府市立鶴見小学校 2年 田原 昂流さん

たのしいな みんなともだち わらいがお

市民意識調査を 実施しました!

この調査は、地域の実情を踏まえ、今後の人権教育及び人権啓発の施策の策定や人権・同和問題の啓発推進に役立てるため、別府市民の人権問題に関する意識を調査したものです。平成22年8月の「差別をなくす運動月間」中に、別府市民から無作為に抽出した対象者1,000名への発送に対し、288名からの回答がありました。市民のみなさまのご協力、ありがとうございました。

調査結果の一部を紹介します

『自分の人権が侵害されたと思った
ことがありますか』という問いに
「ある」と回答した人 31%、
「ない」と回答した人 69%



「ある」と回答した人の具体的に人権が侵害されたと思う内容は「あらぬ噂、他人からの悪口やかげ口」58%、「名誉・信用の毀損(きそん)、侮辱(ぶじょく)」37%となっていて、全国調査(H19)よりも高い割合を示しています。

人権は身近なことから考えたいものです。そして、もし「知らない」ことが噂やかげ口につながっているのであれば、「学び」や「であい」はとても大切なかもしれません。当課では次頁に掲載したような各種事業を実施しております。どうぞご活用下さい。

平成22年度別府市小・中学生「人権標語」 佳作
別府市立石垣小学校 4年 脇田 晴彦さん

だれかじゃない 自分がとめる そのいじめ

別府市では、毎年、次のような各種人権・同和問題啓発事業を行っています。
みなさん、ぜひ積極的にご参加・ご利用ください。

啓発冊子の発行と活用

各種研修会（企業・団体・市職員・公民館等）
幼・小・中・特別支援・高・大学教職員へ配布

人権教育学級

年間9回（6～2月の毎月第2木曜日）
市内公私立幼・小・中・特別支援・高PTA会員対象
市役所5F大会議室 他

身近な人権講座

年間12回（4～2月の毎月第4木曜日）
市民の方々や市職員対象
人権啓発センター、中央公民館 他

人権啓発センター各種講座

春木っ子学習室
人権・同和問題啓発講座

市報「べっぴ」を通じて

年間12回（毎月1回）人権問題啓発記事
年間2回（8月・12月）特集号

市民無料人権相談

毎月第2水曜日、市役所1F女性相談室
特設相談日（年間3回）

人権・同和問題研修会の講師派遣

企業、団体、他の研修会への講師派遣

差別をなくす市民の集い

8月（差別をなくす運動月間）
同和問題など人権問題講演会等

人権を守る市民の集い

12月（人権週間）
同和問題など人権問題講演会等

じんけんフィルムふれあいフェスタ

7月～8月（市内各地区公民館、児童館等）
市民、児童生徒、保護者、教職員等対象

人権啓発パネル・ポスター展

12月（人権週間）
各種人権問題パネル、児童生徒人権作品等

ビデオ・DVDの貸し出し

各種人権・同和問題啓発ビデオ・DVD



平成22年度別府市小・中学生「人権標語」 佳作
別府市立中部中学校 2年 津久美 里奈さん

さがそうよ 自分ができる はじめの一步

いたようだ。母が言うには、鍼を刺しても、基本は痛くないらしい。ただ、少しでも刺すべきところから位置がずれると、痛みをとまなうということだった。兄は、何回も何回も通ったようだから、きつと何度も痛い思いを味わったんだろう。小さいころだったし、すこきつかったと思う。兄だけじゃなくて、父や母も……。もし、私が兄だったら、我慢できなくて逃げ出したくなるだろう。どんなに嫌でも、我慢しないといけないような状況だったのかも。しれない。その状況に耐えた兄たちは、すごいと思う。なかなか真似できない。

身体に障害があるうがなろうが、人はみんな同じだ。どちらが良いわけでも、悪いわけでもない。ただ、やっぱり身体に障害のある人と身体に障害のない人では、一人でできることに大きな差が出てしまう。でも、だからこそその分、一人で何でもできる人は、一人でできないことがある人に、手をさしのべてあげるべきだと思う。そうして支え合いながら生きていければ良い。

だけど、やっぱり身近に身体が不自由な人がいなければ、手伝ったりするのは難しい。それが普通だ。それに、身近にそんな人がいる人は、あまり多くないだろう。その人は、どんなことができて、どんなことができないのか、どんなふうに手伝えようまくいくのか、慣れていないとなかなかわからない。私だって、いざ

やろうと思うことはあっても、うまく手伝ええない。父と母はきばき手際良く手伝っている。慣れた手つきで。私も、兄を大事に思っているし、大切にしているつもりだけど、手伝いをしたことはほとんどない。いつも、親にまかせつきりで、自分は側で見ているだけ。

「何かしようか。」

と、私が声をかけると

「ううん。別に何もしなくて良いよ。」

と返事がくる。そう言われると、確かに、特にすることがないようにも見える。でも、心では、「本当に私は何もしなくて良いのかな」と思ってしまう。事実、私は二人に比べると、できることはずつと少ないだろう。それでも、何かできることがあるはずだ。兄が喜ぶ何かが。そして、私は決めた。ひまな時間があれば、なるべく兄と一緒にいようと。兄の要望に応えようと。そんなささいなことでも、兄は喜んでくれる。笑ってくれる。できることからで良い。周りの人にも、障害者を差別したりしないで、きちんと存在を認めてほしい。それだけでも、きつと喜んでくれる人がいるはずだから。そして、私は、その橋渡しをしたい。



平成22年度別府市小・中学生「人権作文」
別府市長賞

兄は身体障害者

別府市立朝日中学校1年 永松 文

「害児」という言葉を時々耳にする。「障害児」という意味だ。変なことや間違ったことをしている人を、そう呼んでいる人が多い。ただ、そういう場合は、害児と呼ばれている人は健常者だ。その言葉を聞く度に、私は、「そんなふうに呼ぶのはどうなのか。間違いじゃないのかな」と思っていた。でも、その思いを口に出したことは、一度もなかった。友達の中にも、その言葉を使っている人は何人かいたし、みんなそこまで悪気があるわけではないみたいだったからだ。だけど、そんなのはただの言い訳だ。「その言葉は間違っている」という思いはあるのに、だれにも伝えることはできない。それは、自分が弱いせいだ。

私の兄は、身体障害者だ。くわしいことはあまりわからないが、母のおなかの中にいた時に、ウィルスに感染したらしい。兄は、歩くこともできない。会話もできない。かなり重度だ。去年まで

特別支援学校に通っていた。

兄は、一人でできることがとても限られている。生活の中でのほとんどのことを、だれかの手を借りながら成り立たせている。そんなふうに、人に支えられることの多い兄に、支えられている人もいる。私も、そのうちの一人だ。兄の周りにいる人たちは、兄のことを

「いつもにこにこしているね。」

と言う。私や、兄の周りの人たちはみんな、その笑顔に支えられているのだと思う。身体に障害があると、「人から支えられることが多い」というイメージが強いが、人を支えることだってできるのだ。

私は、障害者は、人よりできることは少ないが、人より我慢しなければいけないことはずっと多いような気がする。自分だけが理解できないことや、自分だけができないことがあるのは、もどかしいんじゃないだろうか。

私だったら、「みんなできていのに、なぜ自分だけ……」と不安になりそうだ。病院に毎週通院しないといけなかったり、入院を何度も経験した人もいるようだ。周囲の人間の心ない言葉に傷ついている人もいるかもしれない。私の兄も、三才ごろから小学校四年生ごろまで鍼をもらうために、遠くの町に通って



平成22年度別府市小・中学生「人権ポスター」別府市教育長賞
別府市立西小学校2年 佐藤 妃奈多さんの作品



平成22年度
別府市小・中学生
「人権ポスター」
別府市人権問題啓発
推進協議会長賞
別府市立青山中学校1年
前田 海丘さんの作品

平成23(2011)年度 **ヒューマンライツ**

編集発行 別府市・別府市教育委員会
別府市人権問題啓発推進協議会
〒874-8511 別府市上野口町1番15号
TEL 0977-21-1291
人権同和教育啓発課



感想やご意見がございましたら上記へお寄せください。